

小児科だより vol.62

～ 変異株流行期の保育園クラスターのまとめ ～

2021.11.1 発行

こんにちは。だんだんと冬の気配を感じるようになってまいりました。例年、冬季に流行するインフルエンザですが、当科では今年も10月中旬より予防接種を開始しておりますので、お気軽にご相談下さい。また、2016年の11月号（小児科だより vol.3）に、『うちの子はインフルエンザのワクチンうったほうが良いですか？』というテーマで書いておりますので、乳幼児に接種する際の参考にしていただけますと幸いです。



さて、今月の小児科だよりは、現在感染者数が落ち着いて来ている新型コロナウイルス感染症ですが、2021年春以降、変異株の広がりへの懸念が報道などで強調されてきました。実際に、変異株流行期の感染の広がりや健康への影響について、保育園でのクラスターを中心とした調査について、まとまった報告がありましたので、お話しさせていただきます。

『港区の保育施設における新型コロナウイルス感染症の影響調査』として、みなと保健所（東京都港区）が、今年の4月から8月に調査を行い、公表されているものです。実際に、子どもが検査陽性となった事例および職員が陽性となった事例のうち、保健所が調査介入を行った39施設のデータをまとめたものになります。

概要：39事例のうち『濃厚接触者』とした、31人（職員19人、園児12人）と『接触者』480人（職員146人、園児334人）の合計511人のうち431人にPCR検査を行った。PCR検査を受けた人のうち陽性と判定されたのは、職員156人中11人（7.1%）、園児は275人中9人（3.3%）であった。子どもの健康状態としては、PCR検査を受けた時点で全員無症状であり、PCR検査で陽性となった子ども9人のうち、その後に症状が出たのは2人のみであった（2人とも症状は熱と鼻水、入院はしていない）。感染した職員がマスクをしていた場合には二次感染者はいなかったが、マスクをせずに職員と園児と一緒に食事をしていた事例では園児が2人陽性となった。

大人とは異なり、子どもは自分で行動履歴を説明できないため、子ども同士の接触状況の詳細な把握は困難とされています。しかし、『安心のため』、『念のため』に『濃厚接触者』のみならず、『接触者』まで広く検査を実施した今回のケースを踏まえて考えてみると、従来と比べて大きく感染が広がっているとはいえませんでした。新型コロナウイルス感染症による緊急事態の名のもとに、子どもたちにとって大切な学びや遊びの場、イベントに影響がでており、発達やメンタルヘルスへの影響も危惧されています。我々大人は、子どもたちに我慢を強いるだけでなく、安全な生活・成長の場を支援出来るように努めるべきと考えます。